巻頭言

新たな方針で編集された「淞雲」の再出発に際して、巻頭の辞を記すよう求められた。館長として多少の責任を感じる点もあり、いくらか事情を述べて責めをふさぎたい。

４年前に館長として就任したとき、図書館職員にたいして一つの希望を述べました。館員それぞれが、日常の活動業務とはべつに、みずから課題を設けてそれを達成すべく努めることを求めたのです。

図書館を利用する立場からは、館員は図書の出納という単純な作業に従うだけに見えるかもしれませんが、その内情は意外に複雑です。膨大な蔵書の出入りを適切に管理するのはもちろんですが、たんなる本の番人ではありません。図書館が所蔵する貴重資料の閲覧・複製依頼への対応、雑誌や電子ジャーナルの購入、資料のデジタル化やアーカイブの適切な維持管理など、利用者の目に触れないところで多くの労力が払われています。

私が望んだのは、それらの日常業務に埋もれることなく、わずかな時間を盗んででも自らが望む課題を見出し、それに取り組むという相当に無理なことでした。

取り組みを行えばその成果を発表する場が必要です。当初は紀要の刊行を考えていたのですが、「淞雲」の編集方針を刷新することでそれに代えることにして本号が誕生することになりました。

収める記事を見ると、館蔵の貴重資料についての論考が２編、拙文は場所ふさぎとしても、他に職員の報告が２編含まれていることを喜びたいと思う。原稿を寄せていただいた各位にお礼を申し上げます。

附属図書館には職員もまだ知らない貴重資料が埋もれている可能性があります。また、職員の日々の業務についても改善を工夫する余地があるかもしれず、それらを文字の形で報告することで図書館共通の財産にすることができます。

本誌が今後ますます内容充実していくことを祈念するしだいです。

2015（平成27）年３月27日

島根大学学術情報機構附属図書館長　田籠　博